友情のフォトグラファー写真展2004

Face the Facts, Face the Children.

ー子どもたち、その現実ー

カンボジア
撮影/　渋谷敦志

フィリピン
撮影/　大川砂由里

主催　特定非営利活動法人国境なき子どもたち（KnK）
〒162-0056　東京都新宿区若松町33-6　菱和パレス若松町11階
TEL：03-5155-2506　FAX：03-5155-2507
E-mail：kodomo@knk.or.jp　URL：www.knk.or.jp

オリジナル写真プリント展示例

IDEM Photo Gallery「sirius」/ Tokyo, Shinjuku
Apr.30 to May.8 2004

Cambodia

Cambodia

Philippines

Philippines

Cambodia

Philippines

Gallery Talk

Cambodia2003 (C)Atsushi SHIBUYA

全倍（600×900）　No.6471-15
「若者の家」の教室にて/バッタンバン

半切（356×432）　No.6510-09
職業訓練を受ける少女/バッタンバン

全紙（457×560）　No.6489-10
通学する「若者の家」の子/バッタンバン

半切（356×432）　No.6506-14
バイク修理で自立を目指す/バッタンバン

半切（356×432）　No.6471-22
通学する「若者の家」の子/バッタンバン

半切（356×432）　No.6487-19
絵画の職業訓練/プノンペン

Cambodia2003 (C)Atsushi SHIBUYA

半切（356×432）　No.6490-36
左官職人を目指して/バッタンバン

半切（356×432）　No.6481-28
縫製訓練の教室/バッタンバン

全倍（600×900）　No.6482-21
一家で路上生活を送る子ども/バッタンバン

半切（356×432）　No.6485-17
「若者の家」にて/バッタンバン

全紙（457×560）　No.6472-04
伝統的民族楽器も職業訓練の一環/ポイペト

半切（356×432）　No.6503-32
刑務所に収監された未成年たち/バッタンバン

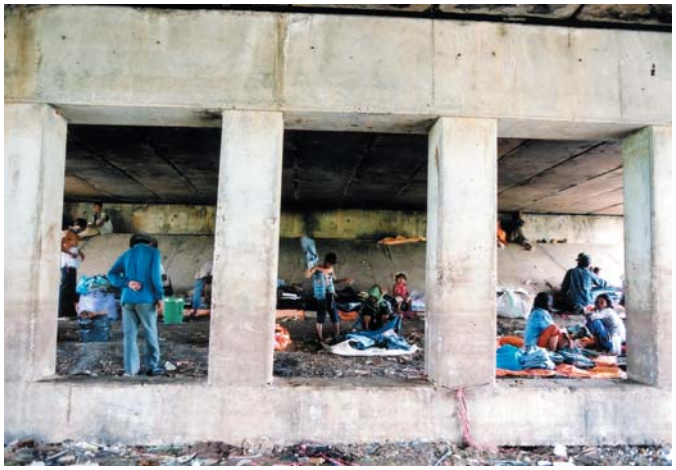
Cambodia2003 (C)Atsushi SHIBUYA

半切（356×432）　No.6507-09
出稼ぎに出たまま戻らない親を待つ/ポイペト

半切（356×432）　No.6499-01
ゴミ山で働く少女(12歳)/プノンペン

半切（356×432）　No.6495-22
ストリートチルドレン/バッタンバン

半切（356×432）　No.6466-17
ストリートチルドレン/バッタンバン



半切（356×432）　No.6491-32
身支度をする荷物運びの少年/タイ・カンボジア国境

半切（356×432）　No.1763-23
ウエイトレス/バッタンバン

Cambodia2003 (C)Atsushi SHIBUYA

半切（356×432）　No.6488-26
売血で食いつなぐ路上生活の少年(13歳)/ポイペト

半切（356×432）　No.6499-01
一日中ゴミを拾わなければ生きられない/プノンペン

吊り下げ式プリント（140×100）　No.6468-02
「若者の家」の少年/バッタンバン

写真展用

ー　オリジナル写真プリント　21点

全倍（600×900）2点、全紙（457×560）2点、半切（356×432）16点
吊り下げ式特大プリント（100×140）1点

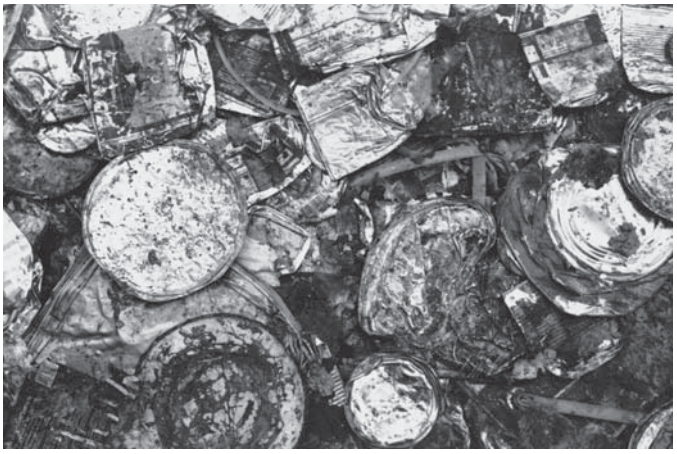
簡易展示用

ー　ラミネート加工写真プリント　21点

（A3ノビサイズ・約370×570）

Philippines2004 (C)Sayuri OHKAWA

全倍（600×900）　No.9375-28
ゴミ山に接するスラムでの暮らし/パヤタス



全紙（457×560）　No.9376-36
缶ゴミの売値は1キロ約3円。米1キロを買うために
10キロの缶を集めなくてはならない/パヤタス

半切（356×432）　No.9376-10
ゴミを積んだトラックの荷台にしがみつく/パヤタス

半切（356×432）　No.9376-04
ゴミの中から傘を集める/パヤタス

半切（356×432）　No.9375-37
ゴミの中に見つけた小さな楽しみ/パヤタス

半切（356×432）　No.9348-36
崩落などの危険と隣り合わせの労働/パヤタス

Philippines2004 (C)Sayuri OHKAWA

半切（356×432）　No.9346-35
国境なき子どもたち(KnK)の施設に集まった子どもたち
/パヤタス

半切（356×432）　No.9372-21
悪臭と炎天下の中ゴミを集め続ける/パヤタス

全倍（600×900）　No.9372-22
早朝のゴミ山の風景/パヤタス

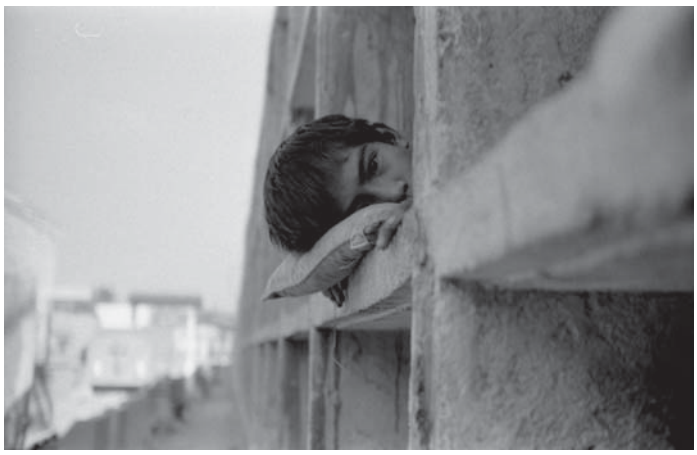
半切（356×432）　No.9376-23
ゴミから発生するメタンガスは働く人々の健康に
悪影響を与えかねない/パヤタス

全紙（457×560）　No.9376-31
道端でコインゲームをする労働者/パヤタス

半切（356×432）　No.9372-15
ゴミ山から生活の糧を得る人々/パヤタス

Philippines2004 (C)Sayuri OHKAWA

半切（356×432）　No.9377-06
捨てられていたおもちゃで遊ぶ子どもたち/パヤタス



半切（356×432）　No.9303-05
墓場で暮らす青年/サンガンダン

半切（356×432）　No.9360-24
市立刑務所/マニラ首都圏

半切（356×432）　No.9374-06
大人と一緒に収監された未成年者/マニラ首都圏

半切（356×432）　No.9326-04
収監された子どもとの面会に訪れた家族から相談を受ける
国境なき子どもたち(KnK)の職員/マニラ首都圏

半切（356×432）　No.9307-15
「友情の家」に保護されてきた少年たち/ケソン市

Philippines2004 (C)Sayuri OHKAWA

半切（356×432）　No.9316-05
国境なき子どもたち(KnK)の「若者の家」/ケソン市

半切（356×432）　No.9343-08
笛を吹く少年/ケソン市「友情の家」

吊り下げ式プリント（140×100）No.9370-20
作業の手を止め座り込む少年/パヤタス

写真展用

ー　オリジナル写真プリント　21点

全倍（600×900）2点、全紙（457×560）2点、半切（356×432）16点
吊り下げ式特大プリント（100×140）1点

簡易展示用

ー　ラミネート加工写真プリント　21点

（A3ノビサイズ・約370×570）

写真家からのメッセージ

カンボジアで出会った子どもたちはみな礼儀正しく寛容で好奇心を持って接してくれた。しかし実は彼らの多くは、カンボジア特有の社会事情や経済的貧困、複雑な家庭環境などさまざまなことを原因とする爆発物を抱えている。その目に見えないものを少しでも知るために、まず目に見えるものをじっくり見た。彼らのちょっとした表情やしぐさから子どもが背負っているものに思いを巡らし、何かを感じたときシャッターを押した。

子どもの声に耳を傾け、肯定し、生きる力を育ててあげるのは大人の責任であり喜びだ。「国境なき子どもたち(KnK)」はその手伝いをしているだけで特別なことはしていない。未来を担う子どもたちのために居場所を作り、安心を与え、生きる意味や学び働くことの価値を考えるための時間を提供しているだけだ。なかなか心を開かない子がいる一方で、メッセージを放射するかのように人と衝突ばかりする子もいる。そんな子どもたちとあきらめずに毎日向き合う仕事だ。

いつもなにげなく聞いていた歌のワンフレーズがすっと胸に入った。

“親の愛を知らぬ子供達の歌を声のしない歌を誰が聞いてくれるの”
(井上陽水『最後のニュース』より)

子どもたちをあきらめてはいけない。

渋谷　敦志

作家プロフィール
1975 年大阪府生まれ。
1999 年立命館大学産業社会学部卒業。在学中、ブラジルの法律事務所で研修。そのかたわら写真撮影を行う。
1999 年大阪・釜が崎の人々を撮影した作品で国境なき医師団日本主催第 3 回 MSF フォトジャーナリスト賞受賞。
同年アフリカ/ケニア、エチオピアを取材・撮影。
2000 年日本写真家協会(JPS)展金賞受賞。
同年アフリカ/アンゴラを取材・撮影。
2001 年中国を取材・撮影。
2002 年ブラジル、アンゴラなどを取材・撮影。
2002 年英国の London Collage of Printing フォトジャーナリズムコースを卒業。
2003 年 11 月国境なき子どもたち(KnK)の依頼でカンボジアを取材・撮影。

写真家からのメッセージ

フィリピン。7000 を超す島々からなるこの国では、人口のおよそ 8 分の 1 にあたる 1000 万人がマニラ首都圏で暮らしている。農村での厳しい生活をあきらめ都市部へ移住する人々は増え続け、スラムと呼ばれる貧困地区には都会の隙間を埋めるようにトタンや木切れで作られた家々が密集する。

マニラ首都圏・ケソン市。派手に飾り付けられた乗合ジープが舗装された大通りを突っ走る。どれだけ多くの客を運ぶかがドライバーのその日の稼ぎを決める。開け放しの窓からは渋滞する車の排気ガスの吸い放題。通りの両側には、いたる所に外国資本のファーストフード店が立ち並び、日本でもなかなかお目にかからない超大型ショッピングモールがここでは簡単に見つかる。食料品から衣類、雑貨にレストラン、ボーリング場にシネマコンプレックスまで、お金があれば何でも手に入る場所だ。

大通りをはずれたごみ山に隣接する貧困地区で 16 歳の少年に出会った。家族は両親を含め 12 人。彼は自分に必要なものができるとごみ山に登り、一日 300 円ほどのお金を得るという。

「たとえば、どんな物を買うの？」
「・・・新しいズボンとかシャツとか、歯ブラシとか、石鹸とか・・・」

国境なき子どもたち（KnK）を通して出会った子どもたちはみな、それぞれの過去や日々の暮らしに様々な問題を抱えていた。今、世界では戦争などが原因で命が危険にさらされている子どもたちのいる一方で、ここには社会の歪みに取り込まれたまま、置き去りにされていく子どもたちの孤独と不安があった。そして子どもたちは声のあげ方を知らない。

大川砂由里

作家プロフィール
1967 年神奈川県生まれ。
1995 年日本写真芸術専門学校 2 部卒業後フリーランス。
1997 年上野公園で暮らす路上生活者を撮影した作品で国境なき医師団日本主催第1回 MSF フォトジャーナリスト賞受賞。
同年アフリカ/マラウィで H.I.V./AIDS を取材・撮影。
1999 年マケドニアのコソボ難民、中国の洪水を取材・撮影。
2001年よりパレスチナの撮影を開始。
2002 年アフリカ/シエラレオネの国内避難民を取材・撮影。
2003 年パレスチナの作品で第4回上野彦馬賞一般部門・毎日新聞社賞受賞。
2004 年1月国境なき子どもたち（KnK）の依頼でフィリピンを取材・撮影。